



げんきな子 がんばる子 やさしい子

園だより

7月号

北区立さくらだこども園
園長 西澤尚子

直接関わる

まだ梅雨が明けない関東ですが、今年は連日プール・水遊びができて、子どもたちは暑い中でもたくさんのお見を楽しんでいます。

気温は高くても水温はそれほどでもなく、プールやシャワーの水の冷たさを全身で感じたり、園庭での水遊びでぬかるんだ地面を裸足で歩いて「気持ちいい!」と感じたり、何色かのクレヨン紙を使ってできた色を「きれいでしょ!」とうれしそうに先生や友達に見せたり。

5歳児が水鉄砲で、少し高いところに的を置き、倒そうとしていました。高い的になかなか水が届かず、どうすれば当たるのか、それぞれの幼児が考え、試す様子が見られました。自分の体を使って、結果を受け止めて、目的に向けて考える、遊びの中で学ぶ姿です。

子どもたちが自分で試してみ、感じ考える姿が見られる一方で、少し気になることもあります。それは「友達がいたのは見えていたけれど、ぶつかった」と言って友達と二人で職員室に手当を受けに来る幼児が増えたことです。大きな怪我ではないのですが、二人で額をぶつけたということは正面衝突をしたということです。二人ともが「歩いていて、友達が前から来るのは見えていた(けれど、止まらなかった...)」と怪我をしたときの状況を話します。どうしてこのようなことが増えたのかを考えたときに、もしかしたらコロナで人との距離をとって過ごした3年間の影響なのでは、と思いました。もちろん、それだけが理由では無いとは思いますが、友達と直接触れ合い、ちょっとした体の接触から、どこまで近付き、どんな勢いでぶつかったと痛いのか、痛くないのかどうするとぶつからないのかの感覚がこれまでに身に付けられなかったのかと考えました。友達と一緒に生活することも園では、友達との関わりの中で、自分の行動を振り返り、互いに心地よくいられる行動の仕方を考えられるようにしていきたいと思っています。

最近の夏は、猛暑でなかなか「戸外での直接体験を楽しんで!」とは言いにくいところがありますが、暑さも含めて自分で感じ、どう生活するかを家族と一緒に考える機会にするのも一つかと思っています。

健康には十分気を付けて、親子で、家族で、友達と、直接関わる楽しい時間が体験できる夏になりますように。

—今月の指導のめあて—

- 〈3歳児〉・着替えや所持品の始末などを、保育者に見守られながら自分でする。
 - ・保育者や友達と過ごす中で、自分のしたい遊びを十分に楽しむ。
 - ・水に触れて遊ぶ楽しさや心地よさを感じる。
- 〈4歳児〉・友達や保育者と一緒に様々な水遊びやプールでの遊びを楽しみ、心地よさや面白さを感じる。
 - ・着替えや水分補給など夏の生活に必要なことに気付き、自分から取り組もうとする。
 - ・夏の自然現象や季節の変化に興味や関心をもったり、栽培物の生長や収穫を喜んだりする。
- 〈5歳児〉・自分の思いやイメージを実現するために、考えたり試したり工夫したりすることを楽しみながら遊ぶ。
 - ・友達の話最後まで聞いたり、相手の思いを確かめたりしながら、遊びや生活を進めようとする。
 - ・水の感触の気持ちよさを感じ、水の中でいろいろな動きを楽しみながら、水の特性に気付く。

〈お願い〉

正門を出るときは必ずお子さんと手を繋ぎ、歩道や自転車のそばまで一緒に行くようにしましょう。

正門前の道路は自転車やバイクの通る道です。お子さんが急に飛び出すと大きな事故になることも考えられます。交通ルールを知らせる機会にもなります。

